神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ	結句	轉句	承句	起句	詩題
<p>・倒履 あわてて履き物を逆さに履くこと。 急いで出て行き、心から人を歓迎することという。</p>	林 ○	寧 ○	今 ○	惡 ●	林亭對客
	下 ●	知 ○	宵 ○	疫 ●	
	共 ○	倒 ●	皎 ●	蔓 ●	
	斟 ○	履 ●	月 ●	延 ○	
	共 ○	迎 ○	洗 ●	常 ○	刪韻
	解 ●	朋 ○	塵 ○	閉 ●	
	顏 ◎	友 ●	寰 ◎	關 ◎	

その他のメモ

文 下 し み 読				
林亭對客	惡疫蔓延して 常に関を閉 <small>と</small> ず	今宵の皎月 塵寰を洗 <small>あら</small> う	いづくんぞ知らん 倒履 <small>とうし</small> 朋友を迎 <small>むか</small> えんとは	林下に共斟すれば 共に解顏

作詩日	平仄式	令和三年十一月七日	仄起式	名前
			牛山 知彦	

語註・典故・作詩メモ									
課題詩									

結句		転句		承句		起句		詩題	
春		閑		馥		晴		林亭對客	
陽		坐		郁		天			
漲		小		蠟		郊			
所		亭		梅		外			
笑		君		多		步			
開		與		往		林		刪韻	
顔	◎	我	●	還	◎	間	◎		

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ									

読み下し文									
春陽漲る所 笑つて顔を開く		小亭に閑坐する 君と我		馥郁たる蠟梅に 往還多し		晴天の郊外 林間を歩む		林亭にて客に對す	

作詩日	平仄式	名前
令和三年十一月	平起式	宇野次郎

語註・典故・作詩メモ

都邑（とゆう）都市
 至喜（しき）この上ないよろこび
 結句の「頭（こうべ）」は重用してしまいましたが、
 表現として効果があると思います。

結句		転句		承句		起句		詩題
黒	●	朋	○	一	●	吾	○	
頭	○	自	●	去	●	離	○	
今	○	遠	●	十	●	都	○	
共	●	方	○	年	○	邑	●	
白	●	来	○	此	○	住	●	
頭	○	至	●	地	●	林	○	
歳	◎	喜	●	停	◎	亭	◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

（七言絶句）

読み下し文

林亭朋に對す
 吾都邑を離れ 林亭に住まう
 一去十年 此の地に停まる
 朋遠方より来たる 至喜なり
 黒き頭今共に白き頭の歳となる

その他のメモ

作詩日	令和三年十一月	平仄式	平起式	名前	高橋 幸雄
-----	---------	-----	-----	----	-------

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩題
山阿……山の奥	論 ○	林 ○	禍 ●	山 ○	林亭對客
	政 ○	下 ●	斂 ●	隅 ○	
	觴 ○	盡 ●	吟 ○	秋 ○	
	詠 ●	歡 ○	朋 ○	邃 ●	
	夕 ●	青 ○	遂 ●	絶 ●	
	陽 ○	旆 ●	約 ●	塵 ○	灰韻
	催	裡	来	挨	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ

読み下し文				
政を論じ觴詠すれば夕陽催す	林下歡を尽くす青旆の裡	禍斂まり吟朋約を遂うて来たる	山隅秋邃く塵埃を絶す	林亭客に對す

作詩日	平仄式	名前
令和三年十月一日	平起式	平賀康雄

語註・典故・作詩メモ			
			雲樹：雲がかかると高く聳える樹 雲樹の念：友を想うこと―だれ漢・P111

結句		転句		承句		起句		詩題	
交	○	落	●	静	○	客	●	林亭対客	
情	○	月	●	坐	●	人	○		
共	●	知	○	林	○	久	●		
醉	●	不	○	亭	○	闊	●		
到	●	雲	○	濁	●	喜	●		
深	○	樹	●	酒	●	相	○		
更	◎	念	●	傾	◎	迎	◎	庚韻	

その他のメモ			

hu			
交情 <small>コウジョウ</small> 共に <small>トモ</small> 酔 <small>ヨ</small> ひて <small>ヒテ</small> 深更 <small>シンコウ</small> に <small>ニ</small> 到 <small>イタ</small> る	落月 <small>ラクゲツ</small> 知 <small>シ</small> る <small>ル</small> やいな <small>ヤ</small> 雲樹 <small>ウンジュ</small> の念 <small>ネン</small> ：	静 <small>シズ</small> かに <small>ニ</small> 林亭 <small>リンテイ</small> に <small>ニ</small> 坐 <small>ザ</small> して <small>シテ</small> 濁酒 <small>ダクシュ</small> 傾 <small>カタム</small> く	客 <small>キヤク</small> 人 <small>ジン</small> 久 <small>キウ</small> 闊 <small>クワツ</small> 喜 <small>ヨロコ</small> び <small>ビ</small> 相迎 <small>アイハカ</small> へ
詩題 <small>シダイ</small> の読み <small>ヨミ</small>			

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和三年一月十日			古川 彌

語註・典故・作詩メモ									

結句		転句		承句		起句		詩題	
不	○	詩	○	緑	●	林	○	林亭對客	庚韻
知	○	客	●	樹	●	亭	○		
不	○	傾	○	飄	○	静	○		
識	●	觴	○	風	○	謚	●		
到	●	乘	○	瑟	●	冷	●		
三	○	興	●	瑟	●	逾	○		
更	◎	處	●	鳴	◎	清	◎		

神漢連 九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ									
転句 詩客高談聊托酒									

読み下し文									
知らず識らず	詩客觴を傾け	緑樹風に飄り	林亭静謚にして	林亭客に對す					
三更に到る	興に乗ずる處	瑟瑟々鳴る	冷逾清						

作詩日	平仄式	令和三年	仄起式	名前
		十一月提出		松本祐輔

語註・典故・作詩メモ							結句		転句		承句		起句		詩題
							夕	●	相	○	共	●	尋	○	
							陽	○	語	●	坐	●	來	○	
							映	●	同	○	林	○	舊	●	
							影	●	吟	○	亭	○	友	●	
							染	●	懷	○	葉	●	誘	●	
							紅	○	往	●	落	●	西	○	
							顔	◎	事	●	斑	◎	山	◎	刪韻

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ						

読み下し文						
夕陽影を映して顔紅に染む	相語らい同に吟じて往事を懐う	共に坐す林亭葉落斑なり	尋ね来る旧友西山に誘う	林亭對客		

作詩日	令和三年十一月七日
平仄式	平起式
名前	三浦昭二

神漢連 九詩期会 詩箋 [七言絶句]

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩題
科第……科挙に同じ 祝筵……祝宴に同じ 賞心……景色をめぐる風流な心	正 ●	被 ●	激 ●	科 ○	林亭對客
	妻 ○	伴 ●	励 ●	第 ○	
	後 ○	林 ○	恩 ○	合 ●	
	迎 ●	亭 ○	師 ○	格 ●	
	賞 ●	逢 ○	気 ●	祝 ●	(東韻)
	心 ○	小 ●	力 ●	筵 ○	
	同 ◎	女 ●	充 ◎	終 ◎	

その他のメモ
質問 結句を左記のように読読んで良いか？ 正一妻 後 迎 賞心同 二

読 み 下 し 文				作詩日	名前
後に <small>のち</small> 正妻 <small>せいさい</small> として迎 <small>むか</small> え 賞心 <small>しょうしん</small> 同 <small>おなじ</small>	林亭 <small>りんてい</small> に伴 <small>ともな</small> われ 少女 <small>しょうじょ</small> に逢 <small>あ</small> う	恩師 <small>おんし</small> の激励 <small>げきれい</small> に 気力 <small>きりよくみつ</small> 充 <small>み</small> つ	登第 <small>とうだい</small> に合格 <small>ごうかく</small> し祝筵 <small>しゆくえん</small> 終 <small>お</small> わる	令和 三年十一月十日	森谷正彦

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

詩題	起句	承句	轉句	結句
林亭對客	満山紅葉小茅亭	一徑尋來會好儔	共語斟杯過日想	余生互願樂康稠
尤韻	◎	◎	●	◎

好儔——良き友
 樂康——樂しみ、やすんず

語註・典故・作詩メモ

文 下 し み 読

その他のメモ

満山紅葉小茅亭	一徑尋ね來り好儔に會う	共に語り杯を斟過日の想い	余生互いに願う樂康稠あらんことを
---------	-------------	--------------	------------------

平仄式

平起式

名前

令和三年十一月

諸星暢義

語註・典故・作詩メモ	結句	転句	承句	起句	詩題
	芙蓉雲上出山巔	寶劍海中猶沈	潮退現濱滅執權	波摧閉路禱崖前	稻村崎古戰場 元韻

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ
現在の稲村ヶ崎は、「真白き富士の嶺」の碑や医学者「コッホの碑」があるが、とりたてて言うところのない、ただの小さな岬である。それをなんとか古戦場に仕立てようと「宝剣」とか書いてみたが、成功したとはいいがたい。
課題の「林亭対客」がとうとうできなかつたので、自由題で提出いたします。
皆さんご存じの鎌倉稲村ヶ崎の故事。鎌倉攻めの新田義貞の軍勢が稲村ヶ崎から鎌倉へ入ろうとしたが、波打ち際は切り立った崖で越えられなかった。そこで義貞が潮が引くのを念じて剣を海中に投じると、その後潮が引いて干潟となり鎌倉に攻め入ったという伝説。

芙蓉雲上に山巔を出す	宝剣海中に猶沈めるが若し	潮退きて浜現われ 執権を滅す	波摧けて路を閉ざし 崖前に待る	稲村ヶ崎古戰場
ふよう うんじょう さんてん いだ	ほうけん かいちゆう なおしず ごと	しおひ はまあらわ しつげん めつ	なみくだ みち と がいぜん いの	いなむらがさき こせんじょう

作詩日	平仄式	名前
令和3年11月8日	平起式	山口 幸雄